

# 4年1組 社会科学習指導案

授業日 平成26年7月7日(月) 3校時  
授業者 附属新潟小学校 教諭 大矢 和憲  
会場 4年1組教室

## 1 単元名 「安全で安心なくらしとまちづくり」～交通事故や事件を防ぐ～

## 2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領3学年及び4学年の内容(4)に準拠して設定したものである。

- |  |
|--|
| <p>(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。<br/>ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。<br/>イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。<br/>(内容の取扱い)</p> <p>(4) 内容の(4)の「災害」については、火災、風水害、地震などの中から選択して取り上げ、「事故の防止」については、交通事故などの事故防止や防犯を取り上げるものとする。</p> <p>(5) 内容の(3)及び(4)にかかわって、地域の社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うものとする。</p> |
|--|

そのうち、「交通事故や事件の防止」についての学習が本単元である。

本単元では、交通事故や犯罪から人々の安全を守るために、警察署が中心となって、市役所や企業、店舗、地域の自治会やボランティア団体などの市民が協力、連携して交通安全運動や防犯活動をしていることや、地域では事故防止や防犯のための様々な工夫がされていること、事故や犯罪の発生時には、警察署が中心となり、関係機関と連携して事故や事件の処理・捜査に当たっていることなどを学習していく。

新潟市では、平成19年に「犯罪のない安心・安全なまちづくり条例」を制定し、警察署による交通違反・犯罪の取り締まりに加えて、「地域ぐるみ・市民ぐるみ」で、日頃から交通事故防止や防犯の活動を行っている。このような活動は、市民一人一人が事故防止や防犯の意識を高め、事故や犯罪に遭わないようにすることを目的に行われている。警察署だけでなく、日頃から様々な人たちが安全で安心なまちになることを願い、工夫や努力、協力をして地域の人々の安全を守ろうとしているのである。これらは、まさに公共の概念に基づいた市民の社会参画の姿である。その成果として、近年、新潟市内での交通事故や事件の発生件数は年々減少傾向にある。

しかし、依然、年間3,457件の交通事故(うち、死者22名、負傷者4,206名)や7,709件の刑法犯罪が起きている(平成24年度新潟市統計より)。警察署や地域の人たちが、工夫や努力、協力をして、「安全で安心なまちづくり」のために交通事故防止や防犯の活動を行っていても、交通事故や犯罪はまだ多発しているのである。このような地域社会の取組と現状を認識し、「どうしたら本当に安全で安心なまちになるのだろうか」と、現実の社会問題について考えていくことが、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を培うことにつながると考える。

そこで本単元では、まず、警察署が地域や市民の安全を守っていること(公助)や、地域の人たちが地域の人々の安全を守るために工夫や努力、協力をして活動していること(共助)を、自分の生活とかかわらせてとらえさせる。その上で、それでも交通事故や事件が起きていることについて問題意識をもたせ、「どうしたら本当に安全で安心なまちになるのだろうか」と、地域社会の問題について考えさせていく。このような学習を通して、「安全で安心なまちにするためには、警察や地域の人たちが安全や安心を守るだけでなく、市民みんなが法やきまりを守ったり、自分の安全は自分で守ったりして協力すること(自助)が大切だ」という公共(安全で安心なまちづくり)の概念を獲得できる単元である。

## 3 本単元で学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力

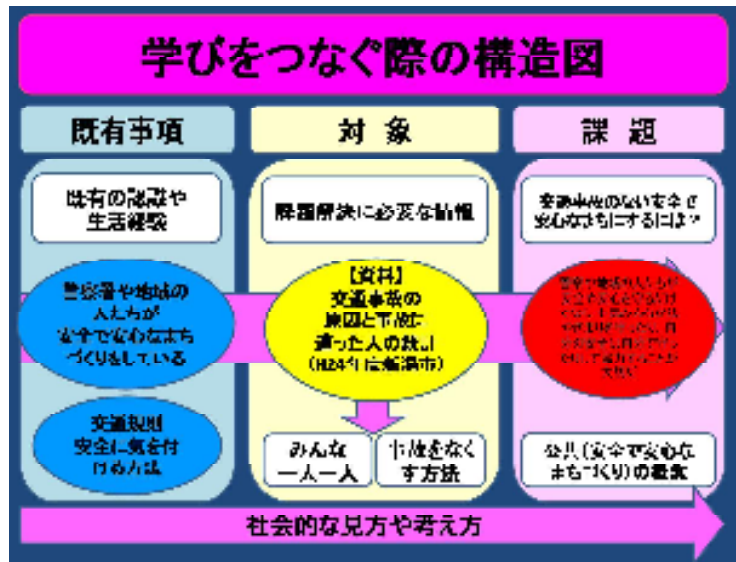
本単元では、警察署の働きや、交通事故防止や防犯の活動に取り組む地域の人たちを追究することを通して、**公共(安全で安心なまちづくり)の概念を獲得する子ども**を目指す。具体的には、「安全で安心なまちにするためには、警察や地域の人たちが安全や安心を守るだけでなく、市民みんなが法やきまりを守ったり、自分の安全は自分で守ったりして協力することが大切だ」などと考える姿である。この姿が、本単元で学びをつなぐ力を高めた姿である。

子どもはこれまでの学習を通して、警察署や地域の人たちが、工夫や努力、協力をして、「安全で安心なまちづくり」のために交通事故防止や防犯の活動を行っていることや、活動の目的や願いを知っている。そして多くの子どもは、これらの人たちによって地域の安全と安心が守られているととらえている。このような子どもが目指す姿になるには、子どもが、それだけでは問題は解決されないという事実を認識し、問題の解決方法を考えていく必要がある。

そのために、まず、子どもに新潟市内で起きた交通事故の件数の推移を表したグラフを提示する。子どもは、年々交通事故の件数が減っていることに関心をもったり、まだ交通事故が無くなっていないことに問題意識をもったりする。このような子どもに、警察署の人がこの事実についてどう思っているのかや、願いが分かる話を提示する。子どもは、交通事故の事実に驚きや疑問を感じたり、問題意識をもったりする。この問題意識を醸成し、安全で安心なまちづくりについて考える学習問題(どうしたら交通事故のない安全で安心なまちになるのだろうか)を設定させる。

次に、学習問題を設定した子どもに、**交通事故の原因と事故に遭った人の統計資料(対象)**を提示

する。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を使って、**既有的認識**や**生活経験**（**既有事項**）と**交通事故の原因**や**結果**（**課題解決に必要な情報**）とをつなぎ、学習問題について多面的・多角的に考えていく。このような子どもが、考えの根幹にあたる公共（安全で安心なまちづくり）の概念を獲得できるように、一体誰がどうすればいいのかと問う。これにより子どもは、**立場と方法を視点に、総合するすべ**を使って、「つまり～」「まとめると～」などと、様々な解決方法を総合して考え始める。こうして子どもは、事故のない安全で安心なまちにするためには、「市民みんながきまりを守る」ことが大切だ」「警察や地域の人が安全や安心を守るだけではなくて、一人一人が自分で気を付けて協力することが大切だ」などと、交通事故のない安全で安心なまちづくりのための結論を考える。



最後に、交通事故防止や防犯の活動に取り組む地域の人話を聞かせる。このとき、子どもは**比較するすべ**を使って、地域の人話と、自分たちが考えたこととをつないで再構成し、目指す姿になる。また、この一連の過程で、内容知（公共の概念）と方法知（比較・関連付け・総合して考えること、多面的・多角的に考えることや公正に判断すること）としての社会的な見方や考え方が養われる。

#### 4 指導計画 全16時間（480）※単元カード参照

#### 5 指導の構想

子どもは、これまでの学習で、警察署が市民の生命・身体・財産を守るために様々な働きをしていることや、地域の人たちが自分たちの地域の安全と安心を守るため、自主的に様々な事故防止や防犯の活動をしていることを調べてきている。その中で、これらの人たちが、地域の人々が事件や事故に遭ってほしくないという願いをもって活動していることを知っている。そのため、子どもは、警察署や地域の人たちによって地域の安全が守られているから安心して暮らせるとらえている。このような子どもに、次のように働き掛ける。

**働き掛け1**  
新潟市内で起きた交通事故の件数（推移）と警察署の人の話を提示し、これからみんなで考えたいことを問う。

安全で安心なまちづくりについて考えさせていくために、警察署や地域の人たちの活動について分かったことと、新潟市内で起きた交通事故の件数の推移を表したグラフを提示し、思ったことを問う。子どもは、交通事故が年々減っていることに、警察署の人や地域の人たちの活動の成果を感じたり、それでもまだ交通事故が多いことに問題意識をもったりする。このような子どもに、警察署の人の話（VTR）を提示する。内容は、件数は減っているが、まだ3,457件もの交通事故が発生しているということと、事故による死者数・負傷者数の事実、交通事故をなくしたいという気持ちである。この話を提示した後、子どもの驚きや疑問を發表させたり、本当に安全で安心なまちと言えるかどうか問うたりして問題意識を醸成し、「これからみんなで考えたいことは何か」と問う。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を使って、驚きや疑問、問題意識を比較・関連付け、「どうしたら交通事故のない安全で安心なまちになるのだろうか」という学習問題を設定する。その後、ワークシートに自分の初発の考えを記述させる。このとき、交通事故の事実（件数）に驚きや疑問を感じ、初発の自分の考えを記述できた子どもを問いをもった姿とする。また、この時点では、子どもはまだ事故の詳細（原因や結果）を知らないため、観念的な考えを記述している状態である。

**働き掛け2**  
交通事故の原因と事故に遭った人が分かる資料を提示し、分かったことや考えたことを、コア・マトリクス表に記述させる。

根拠となる事実を明らかにして実証的に考えさせるために、「どのようなことが分かれば考えられそうか」と問う。子どもは、学習問題を解決するためには、交通事故の原因や結果（課題解決に必要な情報）が分かれば考えられそうだと考え、それらが分かる資料を求める。そのような子どもに、**交通事故の原因と事故に遭った人の統計資料（対象）**を提示し、小グループで資料を分析させる。このとき、思考を視覚化させたり、多面的・多角的に調べたり考えたりさせるために、コア・マトリクス表（右図）を配付し、資料から分かったことや考えたことをマトリクス部分に記述させる。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を使って、資料から分かる原因や結果を比較・関連付け、因果関係や相互関係から多面的・多角的に学習問題について考える。このとき、子どもは資料から分かる事実を基に、実証的に考えている状態である。



### 働き掛け3

分かったことや考えたことを発表させ、その妥当性や根拠を問う。

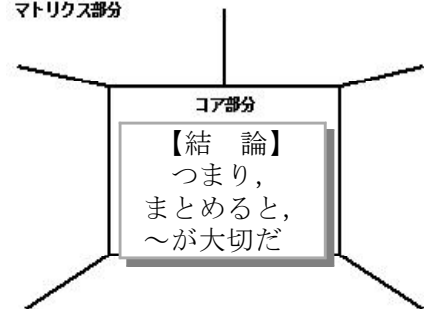
学習問題の解決に重要な視点に気付かせるために、全体で分かったことや考えたことを発表させ、「本当にそれでいいのか」「どうしてそう考えたのか」などと、その妥当性や根拠を問う。また、子どもの考えを全体のコア・マトリクス表に記していく。子どもは、分かったことや考えたことと、その理由を交流する中で、「法やきまりを守ること」や「警察署や地域の人たちの活動の目的」、「誰がどうすればいいか」ということなど（学習問題の解決に重要な視点）に気付く。そして、考えを交流させた後で、学習問題についての今の考えをワークシートに記述させる。この場面で、子どもは、**関係付けるすべ**を使って、**既存の認識や生活経験（既存事項）**と、**交通事故の原因や結果（課題解決に必要な情報）**をつなぎ、学習問題について考えている状態である。上記のような視点ができたら次のように働き掛ける。

### 働き掛け4

一体誰がどうすればよいか問う。

安全で安心なまちづくりのための結論を考えさせるために、「交通事故のない安全で安心なまちにするには、一体誰がどうすればよいか」と問い、コア・マトリクス表のコアの部分に考え（結論）を記述させる。その後、考え（結論）を交流させる。立場と方法を問うことで、子どもは、**総合するすべ**を使って、「つまり～」「まとめると～」などと、様々な解決方法を総合して考え始める。そして、マトリクス部を見ながら、様々な解決方法に関係する立場（市民みんな、一人一人）と方法（法やきまりを守る、安全に気を付ける）に気付く。「交通事故のない安全で安心なまちにするには、市民みんながきまりを守ることが大切だ」「警察や地域の人々が安全や安心を守るだけでなく、一人一人が自分で安全に気を付けることが大切だ」などと、交通事故のない安全で安心なまちにするための結論を考える。全体での考えの交流を通して、子どもが納得のいく結論になったら、次のように働き掛ける。

マトリクス部分



### 働き掛け5

地域の安全を守る活動をしている人の話を聞かせる（VTR）。

子どもが考えた結論の妥当性を確かめさせるために、地域の安全を守る活動をしている人の話を聞かせる（VTR）。提示する話の内容は、「地域の安全を守る活動をしている人が、交通事故のない安全で安心なまちにしようとしてどれだけ活動していても、全ての人の安全を守りきることはできない」というものである。子どもは、地域の人々の話を聞き、自分たちが考えた結論の妥当性を確かめる。その後、学習問題について、大切なことと自分の考えを説明させる。子どもは、**比較するすべ**を使って、地域の人々の話と、自分たちが考えたことを再構成し、考えをワークシートに記述する。子どもは「安全で安心なまちにするためには、警察や地域の人たちが安全や安心を守るだけでなく、市民みんなが法やきまりを守ったり、自分の安全は自分で守ったりして協力することが大切だ」などと、**公共（安全で安心なまちづくり）の概念を獲得する子ども**になる。

さらに、毎時間の授業で「社会科学習日記」（宿題）を書かせていく。ここでは、どのように何を学んだのか、自分の学習過程と、考え方のコツを書かせるように指導する。こうすることで、子どもは、方法知としての社会的な見方や考え方をメタ認知し、以降の学習においても学び方や考え方を活用して学習していくようになる。

## 6 本時の構想（本時 9/16時間 45分授業：3Q）

### (1) ねらい

比較するすべや関係付けるすべ、総合するすべを使って、交通事故のない安全で安心なまちにするための方法を考えることを通して、市民みんなが法やきまりを守ったり、警察や地域の人たちが安全や安心を守るだけでなく、自分の安全は自分で守ったりして協力することが大切だと気づき、安全で安心なまちづくりの概念を形成することができる。

### (2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 警察署が市民の生命・身体・財産を守るために様々な働きをしていることや、地域の人たちが警察署と協力して、自分たちの地域の安全と安心を守るため、自主的に様々な事故防止や防犯の活動をしていることを調べてきている。
- これらの人たちが、地域の人々が事件や事故に遭ってほしくないという願いをもって、事件や事故を未然に防ぐための活動していることを知っている。
- 警察や地域の人たちによって地域の安全が守られているから安心して暮らせるととらえている
- 交通規則や安全に気を付けるための方法を知っている。

このように働き掛けると【働き掛け1】

○説明「これまでの学習で、警察署や地域の人たちが、地域の人々の安全と安心を守ってくれていることが分かりましたね」

※ 警察署や地域の人たちの活動について分かったことをまとめたフリップを提示する。  
・説明「そんなみんなに、今日はとっておきの資料を持ってきましたよ。見てみたいですか」

※資料：「新潟市で起きた交通事故の件数の推移を表したグラフ」を提示する。

※グラフはマスキングをして、少しずつ見せていく。

- ・説明「これは、新潟市内で起きた交通事故の件数を表したグラフです」
  - ・指示「このグラフを見て、思ったことを発表しましょう」
  - ・説明「警察署の人はこのことをどう思っているのでしょうかね。実はO先生、警察署の堀さんに聞いてきました。みんなも知りたいですか」
- ※警察署の人の話（VTR）を大型テレビに提示する。

4年1組のみなさん、こんにちは。新潟中央警察署の堀です。見学に来てから学習は深まりましたか。

グラフを見て分かるように、新潟市内で起きた交通事故の件数は、年々減ってきています。わたしたち警察や地域の人たちの安全・安心を守る活動の成果かもしれません。

しかし、この数字を見て分かるように、まだ3,457件もの交通事故が発生していて、交通事故で命を落とした方は22名、ケガをした方は4,206名もいるのです。この数字を知って、みなさんはどう思いますか。わたしたちは交通事故のない安全で安心なまちにしたいと思っています。

- 指示「堀さんの話を聞いて、驚いたことや疑問に思ったことを発表しましょう」
- ※ 補助発問：「どうしてそう思ったのか」「どうだと思っていたのか」と理由を問う。
- ※ すでに考えを話す子どもには、今どんなことについて考えているかを問う。
- ※ 子どもの驚きや疑問を黒板に記す。
- ・発問「みんなはこのこと（交通事故の件数や死者、負傷者の数）についてどう思いますか」「本当に安全で安心なまちと言えるでしょうか」
- 発問「みんなはこれからどんなことを考えたいですか。どんな学習問題ができそうですか」「これからみんなで考えたい学習問題はこれでいいですか」
- ※ 学習問題を黒板に書く。
- 指示「自分がこの数字（交通事故の件数や死者、負傷者の数）を見て驚いたことや疑問に思ったことと、学習問題、今の自分の考えをワークシートに書きましょう」
- ※ ワークシートを配付する。

### このようになり (G1)

- 提示されたグラフを見て思ったことを発表する。
    - ・地域の安全を守っている人の数のグラフかな。
    - ・交通事故の件数のグラフだ。
    - ・交通事故が減っている。きっと、警察や地域の人たちが工夫や努力、協力をして安全や安心を守っているから減っているんだと思う。
    - ・でも、まだ交通事故はなくなっていないからダメだと思う。
    - ・警察署の人はどう思っているのか知りたい。
  - 警察署の人の話を聞き、驚いたことや疑問に思ったことを発表する。
    - ・警察署や地域の人たちが頑張っているのに、まだこんなに交通事故が起きていて驚いた。
    - ・命を落とした人やケガをした人がたくさんいてビックリした。
    - ・なんでこんなに交通事故が起きるのだろうか」と疑問に思った。
    - ・これじゃあ、警察署や地域の人たちが頑張っているのに。
    - ・まだ安全で安心なまちじゃない。まだ危険なんじゃないかな。
  - 驚きや疑問、問題意識から学習問題をつくる。
    - ・なんで交通事故が起きるのだろうか。
    - ・どうしたら安全で安心なまちになるのだろうか考えたい。
  - ◎「**どうしたら事故やケガ人のない安全で安心なまちになるのだろうか**」(学習問題)
  - 驚きや疑問と自分の考えをワークシートに記述する。
    - ・こんなに交通事故が起きていてびっくりした。
    - ・(警察署や地域の人たちが) もっとパトロールや交通安全の活動をすればいいと思う。
    - ・車を運転する人が運転の仕方に気を付ければいいと思う。
    - ・横断歩道を渡るときに気を付ければいいと思う。
    - ・一人一人が交通事故に遭わないように気を付ければいいと思う。
- \* 検証0：交通事故の事実(件数)に驚きや疑問を感じ、初発の自分の考えを記述できた子どもを問いをもった姿とする。

### このように働き掛けると【働き掛け2-①】

- 発問「みんなは今、どのようなことが分かれば詳しく考えられそうですか」「どんな資料がほしいですか」
- ・説明「それでは、次の時間に学習問題について詳しく考えていきましょう」

### このようになり (G2-①)

- 学習問題について考えるために必要な情報について考える。
  - ・事故の原因が分からないから、原因が分かる資料がほしい。
  - ・どんな事故が起きたのか詳しく分かる資料がほしい。
  - ・どんな人が事故に遭ったのかが分かる資料がほしい。

----- ここから本時 -----

**このように働き掛けると【働き掛け2-②】**

- ※ 学習問題のフリップを黒板に提示する。
- 説明 「今日はこの学習問題について考えていくのでしたね。先生、みんなのリクエストに応じて、みんながほしがっていた資料とコア・マトリクス表を用意してきましたよ」
- ※ 資料「交通事故の原因と事故に遭った人」とコア・マトリクス表を配付する。
- ・指示 「それでは、資料を見て分かったことや考えたことを班で話し合っ、コア・マトリクス表のマトリクスのところに、学習問題について分かったことや考えたことを書きましよう」
- ※ 補助発問：「比べたりつなげたりしたときは、矢印を書いていきましょう」
- ※ 補助発問：机間巡視をして、「なぜそのように考えたのか」「どのようなことが考えられそうか」と問う。
- ※ 机間巡視をして、因果関係や相互関係から多面的・多角的に交通事故をなくす方法を考えていたら、次の働き掛けを行う。

**このようになり (G2-②)**

- 交通事故の原因や結果を調べ、学習問題について考える。
- ・車が原因の事故が多いね。
- ・安全確認不足やわき見運転が原因の事故がすごく多いから、車を運転する人がもっと注意をして運転すればいい。
- ・車を運転できる年齢の人がたくさん事故に遭っているから、車を運転する人がもっときまりを守ったり、安全に運転したりできるように、もっと警察や地域の人が注意を呼び掛ければいい。
- ・車だけではなくて、歩いている人もそうじゃないかな。小学生や高校生の事故も多いよ。
- ・ハンドル、ブレーキ操作ミスが原因の事故も多いから、車を運転する人は車の運転をもっと練習すればいい。
- ・信号無視とかきまりを守っていないことが原因だから、みんながもっと交通のきまりを守るようにすればいい。
- ・違反が原因の事故が多いから、警察署がもっと厳しく違反を取り締まればいい。
- ・お年寄りが事故に遭うことが多いから、お年寄りがもっと安全に気を付ければいい。
- ・どの年齢の人も事故に遭っているから、一人一人が事故に遭わないように気を付けて生活すればいい。

**このように働き掛けると【働き掛け3】**

- 指示 「どの班もマトリクスにいろいろな考えが書けましたね。それでは、学習問題について分かったことや考えたことをみんなで話し合いましよう」
- ・発問 「どうしてそう考えた（言える）のですか」「本当にそれでいいのですか」
- ※ 発表された考えを全体のコア・マトリクス表に記述する。
- ※ 補助発問：「～さんは、このことをつなげて考えたのですね」「みなさんは～さんの考えに納得ですか」
- ・指示 「学習問題について、今の自分の考えをワークシートに書きましよう」
- ※ 「法やきまりを守ること」「警察署や地域の人たちの活動の目的」「誰が気を付ければいいのか」ということなどが出たら、次の働き掛けを行う。

**このようになり (G3)**

- 全体で分かったことや考えたことを交流し、考えの妥当性や根拠を確かめる。
- ・信号無視とか〇〇違反とか、車を運転する人がきまりを守っていないことが原因で事故がたくさん起きているから、車を運転する人がもっときまりを守るようにすればいいと思う。
- ・車を運転する人だけじゃなくて、子どもやお年寄りもたくさん事故に遭っているし、飛び出しが原因の事故もあるから、歩いている人もきまりを守るようにしなければいけないと思う。
- ・きまりを守っていないことが原因の事故が多いから、きまりを守るように警察や地域の人がもっと厳しく取り締まりをすればいいと思います。
- ・そうじゃなくて、車を運転する人も歩いている人も、もっと自分で気を付けなければいけないと思います。理由は、今までの勉強で、警察署や地域の人たちは、地域の人や事件や事故に遭わないようにするために頑張っていたんじゃないですか。だから、そのことをみんながちゃんと協力してやらないといけないと思います。
- \*検証①： のように、事故の原因や結果と、既有的認識や生活経験（「法やきまりを守ること」「警察署や地域の人たちの活動」など）とをつないで、 のように、学習問題について考えている姿が見られたら「関係付けるすべ」を使っていると判断する。

**このように働き掛けると【働き掛け4】**

- 説明 「みんなは、このような学習問題をつくってましたよね」※学習問題を指す。
- ・発問 「では、みんなで考えたことから考えると、交通事故のない安全で安心なまちにするには、一体誰がどうすればよいのですか」
- ・指示 「考えをコア・マトリクス表のコアの部分に書きましよう」「考えを発表しましよう」
- ※ 補助発問：「〇〇さんは、どうしてそのように考えたのですか」
- ※ 発表された考えを、全体のコア・マトリクス表のコアの部分に記す。
- ・説明 「なるほど、みんなはこのように考えているのですね。この考えに納得できますか」

※ 子どもが納得できる結論になったら、次の働き掛けを行う。

#### このようになる (C4)

- 学習問題についての結論を考える。
- ・まとめると、交通事故のない安全で安心なまちにするためには、市民みんなが（一人一人が）交通のきまりを守ることが大切だと思う。
- ・つまり、警察や地域の人が安全や安心を守るだけでなく、市民みんなが（一人一人が）自分で安全に気を付けて、協力することが大切だと思う。
- ・そうそう、それでいい。
- \*検証①'： \_\_\_\_\_ のように、解決方法に関する立場や方法に気付き、結論付ける姿が見られたら、「総合するすべ」を使っていると判断する。

#### 本時ここまで

#### このように働き掛けると【働き掛け5】

- 説明「前の時間、みんなは学習問題についてこのように考えましたね」
  - ※ 学習問題のフリップと、前時のコア・マトリクス表を提示する。
  - ・説明「ところで、みんなが考えたことは本当に安全で安心なまちづくりのためになるのでしょうか」
  - ・説明「実は、今日は、みんなも知っている旭水町内自治会の青木さんから、みんなへのビデオレターが届いています。見てみたいですか」
  - ※ 青木さんのVTRを大型テレビに提示する。
- 4年1組のみなさん、こんにちは。旭水町内自治会の青木です。あれから学習は深まりましたか。前にお話したように、私たちは、地域のみなさんが、安全で安心して暮らせることを願って、交通事故や事件が起きないように、地域のみなさんに注意を呼び掛けたり、パトロールをしたりして、自分たちの地域の安全を自分たちで守ろうと活動しています。

ですが、交通事故や事件は、いっどこで、誰に起きるか分かりません。ですから、いくら私たちがみなさんの安全を守ろうと活動しても、地域の一人一人の安全を全て守りきることはできないのです。

そのことをよく知っていてください。そして、みんなで本当に交通事故や事件のない、安全で安心なまちをつくっていきましょう。
- ・発問「青木さんの話を聞いて、みんなはどう思いましたか」
  - 指示「学習のまとめとして、交通事故のない安全で安心なまちにするために大切なことと、自分の考えをワークシートに書きましょう」

#### このようになる (Cn)

- 旭水町内自治会の青木さんの話を聞き、自分たちの考えの妥当性を確かめる。
- ・きっと青木さんも、ぼくたちと同じように考えているはずだ。
- ・やっぱり、青木さんたち地域の人たちが安全を守るだけではだめだということが分かった。
- ・やっぱり、みんなで交通事故をなくす工夫や努力、協力をしないとだめだと思った
- 学習のまとめとして、大切なことと自分の考えをワークシートに記述する。
- ・わたしは、安全で安心なまちにするためには、警察や地域の人たちが安全や安心を守るだけでなく、市民みんな（一人一人）が法やきまりを守ったり、自分の安全は自分で守ったりして協力することが大切だと分かりました。これからは自分も交通のきまりを守って、自分で交通安全に気を付けて生活しようと思いました。

## 7 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、課題解決に必要な情報と既存事項とを関係付けることができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、「関係付けるすべ」を使って、\_\_\_\_\_ のように、事故の原因や結果と既存の認識や生活経験（「法やきまりを守ること」「警察署や地域の人たちの活動」など）をつないで、\_\_\_\_\_ のように、学習問題について考えることができたかどうかを発言やワークシートの記述から検証する。
- ①' 働き掛け4を受けて、「総合するすべ」を使って、\_\_\_\_\_ のように、様々な解決方法に関する立場と方法に気付き、結論付けることができたかどうかをコア・マトリクス表の記述や発言から検証する。
- ② 働き掛け5を受けて、\_\_\_\_\_ のように、公共（安全で安心なまちづくり）の概念を獲得できたかどうかを、ワークシート下の記述から検証する。

※上記①①' ②全ての検証を通過したら、表れありと判断する。